

## 様式第 2 号

視察研修先	東広島市議会	氏名	月光裕晶
視察研修項目	日本一の教育都市の実現に向けた取り組みについて		
感想・所見など			
<p>東広島市は広島県の中央部に位置し、人口は約 19 万人で「日本三大酒処」の 1 つと称される西条地区を有する国内有数の日本酒の産地である。</p> <p>東広島市は日本一の教育都市の実現のために様々な取り組みを行っており、本市の学力向上に向けた施策の参考とするため視察を行った。</p> <p>現段階の東広島市の学力的学習状況の調査結果としては、広島県全体や全国と比べてすべての科目において平均を上回っている。その理由として、平成 14 年度から施行された学校教育レベルアッププランにあると感じた。その中では、知・徳・体のバランスが取れた『生きる力』の育成に重点を置き、確かな学力、豊かな心、健やかな体を目指している。</p> <p>学力向上に向けた取り組みの中で『授業ルネサンス』と銘打ち様々な教科等の指導技術を伝承し、確かな授業力を身に付けた教職員を育成するものがあり、私はその中のスクールサポート制度というものにすごく興味を持った。これは、教職員の負担軽減と高い教育力の維持向上を目的に行う退職教職員等によるサポートシステムで、学校の様々なニーズに応え、登録している方の経験や技能を活かし、学校、教職員の支援を行っている。現在は、90 人以上もの方が自分の特技や経験を生かしたい分野を選んで会員登録し、学校からの要請で授業指導支援をしているようだ。また、登録に係る事務や各学校からの相談業務、そして会員と学校のマッチング及び支援活動の計画・実施等には、スクールサポートコーディネーター（非常勤職員）があたっている。</p> <p>この事業により、子供たちも質の高い授業を受けることができ、現役の先生方も今後の指導の勉強になるというすばらしいシステムだと思った。平成 30 年度は実施件数が 996 件、支援時間 2,351 時間と、かなり多くの成果が出ているようだ。</p> <p>退職された教職員の高い技術や能力を活用し、そして若い教職員はそこから学び、受け継いでいってもらえれば子供たちの学力の底上げになるのではないかと感じた。</p> <p>ただ、やはり仕組みを作るのが大変なようだが、そこをはじめにしっかりと作れば、その後は特に大変なところはないとのことである。</p> <p>そのように考えると、この取り組みを本市でも取り入れることができれば、定年後の教職員の雇用、現役の教職員のレベルアップ、人員不足、子供の教育、すべてにプラスになると感じた。しかし予算確保や、会員と学校のマッチングの難しさなどの問題もあるため、引き続き研究課題とする。</p>			

## 様式第2号

視察研修先	廿日市市議会	氏名	月光裕晶
視察研修項目	串戸市民センターの取り組みについて		
感想・所見など			
<p>廿日市市は広島県西部の瀬戸内海に面する人口約 11 万 7 千人の産業都市である。</p> <p>市内 21ヶ所に設置されている市民センターは、まちづくりの拠点施設として位置づけられている。その 1つである串戸市民センターは、人口約 4,000 人余りで小学校が1校のコンパクトな串戸地区にあり、文部科学省主催の第 71 回優良公民館表彰において優秀賞に選ばれた。</p> <p>この度の視察目的は、そうした当センターの取り組みを本市柴橋地区に設置されるコミュニティセンターにも生かせるのではないかと思ったからである。</p> <p>受賞理由となった主な活動は、平成 29 年度から実施している『ぼくのまちわたしのまちプロジェクト』である。このプロジェクトでは、子供を主役に世代間交流と次世代育成を大きなテーマとし、シビックプライドを育む活動を展開している。</p> <p>このプロジェクトを企画した背景には、串戸地区の傾向として若い核家族世帯が多く人口は微増傾向にあったが、町内会に所属する率がかなり低くなっているという地域の課題があった。若い世代ともっと交流を図りたい、子供が来てくれれば親も集まる、その場所をセンターで作っていいんじゃないか、というところが出発点のようだ。</p> <p>当プロジェクトは、地域の資源（伝統、施設や団体、商店街を含む）を活用し、若い世代のセンター利用を増やすことを目的としている。主な活動内容は、子供たちが童謡を歌って踊るイベント、けん玉の世界大会へ向けての泊まりがけでの合宿、地元出身の作家によるワークショップ、高校生や大学生と共に行うイベント等多岐にわたっている。センターの職員が目指すとおり、このセンターが子供から大人まで多くの住民が集い、交流を深め、地域の愛着心を育む拠点となっていると感じた。</p> <p>また、所長の松本さんや主任の西川さんのセンターを盛り上げていこう、地区全体を盛り上げていこうという情熱がとてもよく感じられた。公民館や市民センター、コミュニティセンター等はそこで働く人たちと地域の皆さんの情熱次第でよくも悪くもなると感じた。</p> <p>本市柴橋地区に新たに設置されるコミュニティセンターは、初めての取り組みなので、地区の人達も手探り状態で不安に感じているところもあるようだが、やはり地域の特色を生かして子供から大人まで楽しく過ごせるようなセンターにしたいものである。</p>			

様式第 2 号

視察研修先	三次市議会	氏名	月光裕晶
視察研修項目	不妊治療費助成について		
<p>感想・所見など</p> <p>三次市は、広島県北部の山間部に位置し、合併を繰り返してできたとても面積の大きな市で、人口は約 51,800 人である。市域は雲海も見ることができる盆地に広がり、市内には複数の川が流れる、少しだけ寒河江市に似た市である。</p> <p>私がこの度三次市に訪れたのは、特定不妊治療費全額助成にとっても興味を持ったからである。</p> <p>三次市の不妊治療費助成事業は、少子化対策として、不妊に悩む妊娠を希望される夫婦に対し、不妊治療の啓発と経済的な支援を目的とした事業である。平成 19 年度から実施しており、全国的にも早くから取り組んでいる。不妊治療費の助成については、国の事業として都道府県が実施主体となり、全国の自治体で実施されているが、三次市では、平成 27 年度から市が助成金を上乗せすることで特定不妊治療費の全額助成を実施し、支援の充実を図った。また、平成 28 年度から不育治療費への支援、さらに、平成 29 年度からは不妊検査も対象となる一般不妊治療費助成を実施している。</p> <p>助成を充実した平成 27 年度から順調に申請数も増えており、平成 30 年度の全出生数の約 1 割が助成を受け生まれてきた赤ちゃんである。そして、今まで特定不妊治療は 30 代の女性や 40 代前半の女性が多い傾向にあったのだが、現在は 20 代の若い女性も治療に通っているようだ。これは、やはり経済的な負担がなくなったことで若い世代も気軽に治療に通えるようになったからであり、当事業はこうした若い女性を含め市民にとっても喜ばれているとのことである。</p> <p>一方で財政的な問題もあるようだ。特定不妊治療費全額助成開始前の平成 26 年度の助成額はトータルで約 592 万円であったが、全額助成後の平成 27 年度は 3 倍以上の約 2,200 万円まで増えた。その後は少し落ち着いたが、やはり 1,500 万円前後の支出になっているようだ。</p> <p>以上のことを踏まえると、出生数の向上には確実に効果が見られることから、不妊治療費への助成はより充実していくべきものと考えます。本市においても特定不妊治療費助成金への上乗せなどを行っているが、上限金額を決めない全額助成化や、不妊検査費、不育治療費への助成の拡大を図っていくべきではないか。他方、財政的な負担が大きくなることから、財源をよく検討する必要があるため、引き続き研究課題とする。</p>			

様式第 2 号

視察研修先	広島市議会	氏名	月光裕晶
視察研修項目	古田公民館の取り組みについて		
<p>感想・所見など</p> <p>古田公民館のある広島市西区は、人口約 19 万人で瀬戸内海に面し河川と山々に囲まれ、恵まれた自然環境を持つ地区である。</p> <p>古田公民館は西区にある 9 つの公民館の 1 つで、その活動が認められ、文部科学省主催の第 71 回優良公民館表彰において最優秀賞に選ばれた。この度視察に訪れた目的は、そうした素晴らしい取り組みを、本市柴橋地区に新たにできるコミュニティセンターにも生かせるのではないかと思ったからである。</p> <p>受賞の理由となった活動は『このまちにくらしたいプロジェクト』という中学生が中心になったプロジェクトである。やはり、この古田地区でも人口減少は大きな問題の 1 つであり、そのためには幅広い世代の交流が重要と考え、古田公民館は事業施策の柱に『多世代』を掲げた。まずは多世代が集う場『多世代寺子屋ネットワーク』を作り交流を深め、その後、古田中学校から ESD(持続可能な開発のための教育)学習支援の要請を受け、公民館と多世代寺子屋で中学生の地域 ESD 活動の受け皿となった。</p> <p>プロジェクトの目的として、中学生が住民とともに人口減少などの社会課題と向き合い、住み慣れた地域で多様な世代が共生できる持続可能な将来像を描き、そのために今、住民自身でできる行動を起こすこと(住民自治)を目指す。また、その学習活動の成果を生かして、社会に主体的に関わり行動する人材を育むための活動を行うことである。</p> <p>主な活動内容は、中学生が中心となって、まずは街の将来像を描き、次に調査やアンケートなどを実施、活動拠点を決め、参考になるような場所を視察し、多世代が訪れるイベントを企画した。あまり使われていない公園を活動拠点とし、公園を活性化し多世代の居場所づくりを目的とした様々なイベントを企画した。例えば、遊具を手作りして子供を集め、一緒にきた大人たちもくつろげるようなカフェーンを作ったり、大道芸の特技を持っている地区のお年寄りたちによる大道芸体験などを行ったりするなど、地域の力によって公園を盛り上げた。その年の反省点を次の年に活かし、より完成度の高いイベントにすることによって、平成 30 年度には 200 人近くの人が公園に訪れるようになったようだ。</p> <p>このプロジェクトの説明を受けて、中学生が主役ではあるのだが周りの地域の人たちのサポートがとても重要だと思った。年々参加する中学生の数も増えているようで、継続をするというのはとても大切な事だと改めて思った。</p> <p>そして、その地区を盛り上げるのはその地区に住んでいる人たち、その思いで古田公民館は全てが動いていると感じた。</p> <p>本市柴橋地区に設置されるコミュニティセンターも、地区の人たちが地区を盛り上げていく拠点として充実させていかなければならないと感じた。</p>			